

ぎょうがく に どう 励 そうろう
 行学の二道をはげみ候べ
 し。ぎょうがく 絶 ぶっぼう
 行学たえなば仏法は
 あるべからず。われ
 し、ひと きょう け そうら ぎょう
 人をも教化候え。行
 学は信心よりおこるべく
 候。ちから いちもん いっく
 力あらば一文一句な
 りともかたらせ給うべし。

(御書新版 1793 ページ・御書全集 1361 ページ)

通解

ぎょうがく に どう はげ
 行学の二道を励んでいきなさい。
 行学が絶えてしまえば仏
 法はない。自分も行い、人をも
 教化していきなさい。行学は信
 心から起こる。ちから
 力があるならば
 いちもん いっく
 一文一句であっても人に語って
 いきなさい。

 こんぽん ひやく
 信心根本で飛躍の一年を！

よくわかる解説

皆さんこんにちは！ サンです！ 「世界青年学
 会 躍動の年」が始まったね☆ 今年もみんなで御
 書を学び、自分を磨く一年にしていこう！

今回学ぶ「しょうほうじっそうしょう」は、1273年（文永
 10年）、日蓮大聖人が52歳の時に佐渡で著され、
 さいれんぼう あた
 最蓮房に与えられたお手紙とされています。最蓮房
 は、大聖人と同じ時期に佐渡に流罪されていた天台
 しゅう がくそう
 宗の学僧で、大聖人と出会い、弟子になったといわ
 れています。

この御文の中で、大聖人は、仏道修行には「行
 がく に どう
 学の二道」が欠かせないと説いています。「行」は、
 自身の生命を磨く勤行・唱題の「じぎょう
 自行」と、周り
 の人に仏法の教えを語る「け た ぎょう
 化他行」のこと。「学」は、
 仏法の法理を学び深めることです。

私たちに置き換えると、池田先生の励ましの言葉
 を周りの友人に伝えたり、先生の著作を学んで理解
 を深めたりする取り組みが、そのまま「行学」の実
 践に通じるんだ。もちろん、毎月の「ビクトリー御

書」を通して、御書を研さんすることも、「学」の実
 践になっているよ！

何より大切なのは、「ぎょうがく しんじん
 行学は信心よりおこるべく
 候」と述べられているように、どこまでも妙法を信
 じ抜くことだよ。“信心で乗り越えられない壁はな
 い！”との確信で祈ること——これは、自分自身の
 可能性を信じることにもつながるよね。「信」を根本
 こんぽん
 に、「行学」に励むことで、どんな困難にも負けない、
 勝利の人生を歩んでいくことができるんだ。

池田先生は語っています。

「祈りは、ひたすら御本尊に思いの丈をぶつけて
 いけばいいんです。その際、“信”を入れること、
 つまり、どこまでも御本尊を信じ抜き、むりょうむへん
 無量無辺の
 功德力を確信して、魂のこもった祈りを捧げること
 です」

新年を迎えた今、一年の目標を掲げてスタートし
 た人も多いはず。真剣な祈りと、「行学の二道」の実
 践で、さらなる飛躍を目指して、大成長の日々を送っ
 ていこう！